

会 議 録

会議名	平成27年度 第4回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成27年7月24日(金) 10:00~11:55
開催場所	丸亀市生涯学習センター 2階 第1会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p style="text-align: center;">岡本 恵子 金 永 子 黒田 英津子 日野 明世 森 茂 石原 茂 仁科 清 早馬 倫代</p> <p>(説明のために出席した者)</p> <p style="text-align: center;">市長公室長 山田 哲也 政策課長 大喜多 章親 政策課副課長 富士川 貴 政策課担当長 志村 芳隆 政策課主査 真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 事業評価について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	2名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
政策課長	<p>ただ今より、第4回目の丸亀市行政評価委員会を開会いたします。本日は、ご多忙中ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>最初に、本日の配布資料の確認をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">＜資料確認＞</p> <p>資料はお揃いのようなので、以後の進行につきましては、会長に議長をお願いします。</p>
金会長	<p>議事に入ります前に、本日8名の委員全員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>それでは、「議事の1 事業評価について」事務局の説明をお願いします。</p>
政策課志村	＜事業評価の説明＞
金会長	<p>表決について、同数になった場合はさらに協議し、再度決することでよいか。また今回は事業の方向性だけでなく、「必要性」、「効率性」、「有効性」の部分についても、「妥当」か「改善」かを最終意見として表決したいと思うが、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜委員＝了承＞</p>

金会長	<p>それでは表決については、そのような方法で進めたいと思います。 早速、事業評価に入ります。事業①「こんぴら湊一丸亀街道ゾーン整備事業費」について、ご意見をお願いします。</p>
岡本委員	<p>委員からのコメントのうち、「地域おこし、まちおこしには多大な知名度が必要」との意見があるがどういう意味か。</p>
石原委員	<p>金毘羅街道の整備事業をただだけでなく、さらにその知名度を上げるにはどうしたらよいかという意味でのコメントとしている。</p>
金会長	<p>「地中埋設による選択肢」とはどういう意味か。</p>
仁科委員	<p>富屋町のアーケードが撤去され、電信柱があまりにも目立つようになったことから、電柱の地中埋設ができないかという内容である。</p>
岡本委員	<p>意見の6つ目にある「景観の整備だけでなく、関係箇所との連携により三次元の空間を提供し、滞在型・時間消費型による地域活性化に結びつける」というコメントはいい意見だと思う。こういうソフト事業ができて金毘羅街道が整備できればと思う。それから知名度を上げたり、周知が必要であるというのは、都市計画課が実施したこのハード事業を今後どうするかという内容であり、この事業自体の評価としては少し違うのではないか。</p> <p>この事業自体に問題はないと思うが、この事業に至るまでの部分で疑問視した。コミュニケーションが増えたような効果もありいいとは思いますが、人口動態も調べて、今後商店街をどのような方向性にもっていくのかという都市計画課の事業の一端として、将来計画が必要であったと思う。</p> <p>そこで事業自体の評価としての意見と、その後、今後ソフト事業を通して発展させてほしいという内容を付して、分けてコメントすればいいと思う。</p>
金会長	<p>事業としてはもちろん必要性はあるが、次のステップという意味で維持か改善で悩んだが、維持とした。もう少しこういうことをすれば効果が高まるという意見である。</p>
森副会長	<p>事業そのものの評価という意味で維持とした。今後の活用とは別にした。</p>
黒田委員	<p>この事業そのものの評価だけでなく、これにソフト事業を加えていく拡充という内容での改善としたが、今言われているように維持かなと思う。</p>
岡本委員	<p>私は効率性と有効性は妥当とした。計画段階でもう少し将来性を考えなくて</p>

	<p>はいけないとして、必要性を改善とした。</p>
早馬委員	<p>維持か改善かで悩んだ。パンフレットの販売など全体としていい方向にもって行くには改善かなとも思う。</p>
仁科委員	<p>富屋町アーケードの撤去により、電信柱が目立つようになって、金毘羅街道のイメージには合わない。できればさらにハード面で、情緒のあるまちづくりにしてほしいという意味合いで改善とした。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決に入ります。 <必要性:妥当6・改善2、効率性:妥当4・改善4、有効性:妥当4・改善4> <維持3、改善5> 「改善」が多数になりました。 次に、事業②「学校図書館教育推進事業費」について意見ををお願いします。</p>
岡本委員	<p>皆さんの意見を見ると、学校司書の研修が不十分、また勤務日数を増やすとの意見が多いように感じる。意見の中で、「学校司書の「見える化」の努力が必要」という意見があるが、こういった内容なのか。</p>
金会長	<p>ヒアリング後の追加資料によると、本の貸出冊数のみで図書館活動を評価できないとのことであったが、特に中学校の生徒一人当たりの貸出冊数は低く、中学校の学校司書業務の仕事の中身が見えてこないもので、単純にそういう意見とした。学校教育課が、学校司書により何を目指しているのか、ビジョンをどう持っているのかということである。</p>
岡本委員	<p>学校司書の仕事は多岐にわたり、自分で研修して十二分に努力されている方もいれば、新しく入ってきたばかりの人もいる。そういう意味でも研修は必要であるが、学校司書の仕事は普通の図書館と一緒に終わりのない仕事で、そのような時間も取れない状況だと思う。 またこの事業により、学校図書館はいつも開いている状況となって、それにより明るい図書館になっている。読書と学力には相関関係があり、各校に一人を配置しているのは丸亀市が一層力を入れようとしている表れである。</p>
仁科委員	<p>私の頃は学校図書館が暗いというイメージはなかった。学校司書の人を配置するだけでなく、どのように活用するのかという中身が必要である。一概には言えないが、法律でも「学校司書を置くことに努めなければならない」とあるので、これは真摯に受け止めなければいけない。</p>
岡本委員	<p>人数ではなく 210 日の勤務をもう少し増やすことが望ましい。学校図書館は</p>

	<p>家からも近いので、長期休暇中にも開館することで、親も子どもを安心して歩いて行かせることができ、調べ学習もすることができる。そこに学校司書の方がいれば子どもの意欲も湧いてくる。それと新人研修など効果的な工夫も必要であり拡充とした。</p>
早馬委員	<p>夏休みには読書感想文の宿題もあるので、図書の専門知識のある人がいればアドバイスなども受けられる。中央図書館だと遠いので、学校図書館が夏休み中などにも開館していれば、子どもも自由に使えるので、そのような対応をしてほしいという意味で拡充とした。</p>
日野委員	<p>私も拡充とした。私の短大でも司書の資質や意欲によって、学生が図書館へ来る人数や読書数は明らかに違っている。皆で選ぶ百冊など、本の配置の工夫をすることで図書館の利用度も変わってくる。</p> <p>学校司書の本に対する愛情、本の意義の理解度によって、子どもに対する影響も変わってくる。いつでも開いていて、もっと本が好きになる仕掛けができる学校司書がいて、結果的に本を読むことが実になるということを実感できる活動をしてほしい。学校司書の研修や勤務日数を増やして、図書館教育に割く時間を増やして、図書の整理だけに終わる勤務にしてほしくない。</p>
金会長	<p>今回の資料だけでは、中学校の学校司書が何をしているのかが見えてこなかった。貸出冊数以外に見えてくるものがなかった。毎日図書館を開けなくても、1日休んでその分を夏休みに開ければと思って改善とした。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p><必要性:妥当7・改善1、効率性:妥当3・改善5、有効性:妥当3・改善5> <拡充4、維持2、改善2></p> <p>「拡充」多数となりました。</p> <p>次に、事業③「生活困窮者自立促進支援モデル事業費」について意見を申し上げます。</p>
金会長	<p>コメントの中に「国の補助金から外れ市独自予算で実施」という表現があるが、国の補助がなくなるのではないので表現を検討したほうがよい。また「本市で中間的就労を受け入れる事業開始の兆しがない」との表現であるが、本市で事業をしていると聞いている。</p>
岡本委員	<p>国の補助に係わらず費用対効果を考えてほしいという内容である。中間的就労をする事業所の部分は事務局で事実確認いただきたい。</p>

金会長	<p>全体的に委託先の賃金についての意見が多かったように思う。</p> <p>私は拡充にしたいという思いはあった。しかしモデル事業として始まったばかりで、状況やニーズを把握して実施していく意味では維持か改善と思ったが、事業所の選定方法の部分で改善とした。事業①と同じように今後こうすればという積極的改善である。</p> <p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p><必要性:妥当8・改善0、効率性:妥当1・改善7、有効性:妥当2・改善6> <維持2、改善6></p> <p>「改善」多数となりました。</p> <p>次に、事業④「地域市民活動促進事業費」について意見ををお願いします。</p>
岡本委員	<p>コメントの4つ目、「人口減少が進んでいく中、～協働は推進していく必要がある。」はどう意味か。また6つ目、「既成の団体以外でもコミュニティセンターを利用できるようにする必要」とあるが、コミュニティセンターは使えるはずである。どういう実態に即した意見なのか。</p>
日野委員	<p>人口減少により税収減となる中、また職員も減少していく中、市民の多様なニーズに応えるためにも協働事業は必要という意味である。</p> <p>もう一つは、身近なコミュニティセンターを利用するときに、既に定期的に使っているところがいて、飛び込みで小さな団体が使いたいと思ったときに、使えなかったという実態があったことによるコメントである。</p>
岡本委員	<p>コメントの7つ目、「提案型協働事業の内容によっては、継続実施・定着できるよう市が助成することも必要」とあるが、どういう意味か。</p>
黒田委員	<p>提案型協働事業が単発で終わっては勿体ない。必要な事業は定着して継続した方がよいことから、その助成や物品貸与等も必要という意味である。</p>
岡本委員	<p>提案型協働事業によって、事業を始めて所管課の予算や助成により継続、定着した事業もある。</p>
金会長	<p>この部分は、「これまで以上に市が積極的に支援する」ということで、事務局で変更をお願いします</p>
岡本委員	<p>事業開始当初は市民側からの提案型の協働事業が多かったが、市役所側でこういうことをできないかという市提案型が広がってきている。ただ企業とのコラボが進んでいないのが実情である。</p>

仁科委員	市協働実行計画にもあるとおり、協働にあたっては企業の働きは大切である。
岡本委員	現在、所管課では団体の取りまとめにやっと着手できた段階で、歯車が回り始めたところである。企業も社会貢献をしたいと考えているが、その部分が市役所との結びつきになっていない。これからは企業との協働に対し、積極的に取り組めるような人員も必要である。担当では手一杯の状況であり、拡充という形で対応していただきたい。
仁科委員	協働が停滞するのは、職員の資質または市民の意識が原因か。
岡本委員	<p>その原因は両方にある。職員の中にも協働について今ひとつというところであり、市民の側にも協働という意識は少なく、補助金をもらえるのであればという感じである。一緒にまちづくりをしようという考えを持つことが必要である。</p> <p>若い世代の団体などには SNS などを利用することも有効である。若い人たちがまちづくりに関わっていける仕掛けを応援したい。若い事業主の方にも関心をもっていただけるようにしてほしい。やっとそういう兆しが見え始めた段階であり、さらに頑張っていただきたい。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p><必要性:妥当 8・改善 0、効率性:妥当 4・改善 4、有効性:妥当 1・改善 7 > <拡充 2、改善 6 ></p> <p>「改善」多数となりました。</p> <p>次に、事業⑤「地区コミュニティ運営補助金」について意見ををお願いします。</p>
岡本委員	コメントの 3 つ目、「地域市民活動推進事業費とは別メニューにするべき」とは、どういう意味か。
森副会長	ステップアップ補助事業をコミュニティも活用していることから、補助金集約化にあたり、それは別にするべきということである。
岡本委員	コメントの 8 つ目、運営補助金の「配賦方法」という表現は変更したほうがよい。
黒田委員	人口や世帯割により一律に補助金を配賦している部分があったが、コミュニティによっては、ただお金をもらって従来通り漫然と事業をしているところもあるかもしれない。この部分が弱いからこうしたいという中身を重視して、そ

岡本委員	<p>こに対して補助金を出したほうが良いという意味でのコメントとした。運営補助金の積算方法のことである。</p> <p>コメント全般的には、コミュニティ活動のあり方、補助金のあり方、人材育成の3つが多いように思う。コミュニティは地区の全世帯住民を対象にしているが、実績で何人が参加したか報告書に記載がないところもある。全住民、全世帯を網羅することは難しいが、去年はこういう世代の参加が少なかったから、今年はその部分を考えてみようということができていない。昨年と同じことを今年もするという、コミュニティのあり方の部分で問題はあある。</p> <p>補助金の部分についても、こういう目的のために、こういう結果が出て、こういうまちづくりに役立ったというところが見えてこない。</p> <p>最大の問題である次世代の人材育成の部分については全く進んでいない。この補助金が、どういう形で次年度につながり、10年後につながり、市全体のまちづくりにどう役立つかというところが疑問である。</p>
仁科委員	<p>今年から地域担当職員制度を導入し、こういう制度改正をする第一歩にもなると思う。</p>
岡本委員	<p>7つ目のコメントで、「リーダーの後継者育成に関して市が統一的去行う以外に」とあるが、市はリーダーの育成をしていないのではないか。</p>
黒田委員	<p>もし市がリーダー育成をしていたら、そういう統一的なものだけではなくて、地域によって、この年代の人にこういうことを知っていただきたいという違いもあるはずなので、地域のニーズに合わせた個別的な要素による育成が必要である。</p>
仁科委員	<p>後進者を育てていくには、40、50代の人を中心に考えていかないといけない。</p>
岡本委員	<p>リーダーになった人を育成するのではなく、次世代のリーダーを育成するというリーダー育成が必要である。</p>
早馬委員	<p>コミュニティで活動されている方がいる中で、60代の人でもまだ若く、意見も言えずにいるのに、それを飛ばして40、50代の人意見が言っていくのはなかなか難しいと思う。</p>
黒田委員	<p>定年退職後、時間ができて、体力もまだあってという人たちにコミュニティで活躍する意識を持ってもらうことが大事である。若い人たちには、その気になってもらって、結構参加したら楽しいという思いになってもらいたい。研修をするなど、その方法は地域によっても違いうし、市が統一して行うものも必要</p>

<p>金会長</p>	<p>であるし、地域それぞれでリーダーにその内なっていくという仕組みがあったらいいなという思いである。</p> <p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p><必要性:妥当4・改善4、効率性:妥当0・改善8、有効性:妥当0・改善8></p> <p><維持1、改善6、縮小1></p> <p>「改善」多数となりました。</p> <p>以上で事業の評価が終わりました。今後の日程について事務局からお願いします。</p>
<p>政策課志村</p>	<p><日程等調整></p>
<p>金会長</p>	<p>それでは、以上で本日の議事は終わります。お疲れさまでした。</p>